補論　集落営農組織による地域づくりの取組事例

－山鹿市庄地区　農事組合法人庄の夢－

平林　光幸

１．　庄地区の概要

調査を行った集落営農法人のある庄地区（集落）は，平坦な水田農業地域にある。2010年農業センサスによると，集落の総農家数は 53 戸，販売農家数は 42 戸である。主業農家数は 18 戸，準主業農家数は 5 戸である。また，集落の田面積は 115ha である。庄地区では，ムラ仕事として，草刈は 5 月，7 月，9 月の年 3 回あり，また井手さらいは 3 月と 9 月の 2 回ある。水利費は集落内が 1,000 円/10a，集落外が 2,000 円/10a である。

地区精通者からのヒアリングによると，専業的農家の多くはイチゴと電照ギクの施設農家であり，稲作専業農家はいない。そのため，小規模高齢農家の離農農地を引き受けることができる担い手が存在しない。そうしたことから，離農農地の多くは地区外の農家が引き受けることとなり，結果的に入り作が非常に多い状況にある。現在，庄地区への入り作者(1)が約 100 名おり，彼らが地区の田 65ha を耕作しているため，地域農業に対して少なくない影響を及ぼしている。

２．　集落営農組織の設立契機

既述の通り，集落には入り作者が多いが，彼らの多くは畦畔の草刈作業をしないで，除草剤散布を実施している。そのため，畦畔が壊れるなど，畦畔管理に問題があるような入り作者もいる。しかし，これまで集落で流動化する農地を引き受けられる担い手がいなかったたため，地権者は借り手である入り作者に強く言えなかった。他方で，集落内の農家だけではなく，入り作者にも後継者はおらず，将来的に農地の受け手がいない状況にあった。

そうした中で，2012 年 7 月に人・農地プランの策定について山鹿市から提案があり，熊本県に 20 カ所ある重点地区の 1 つに選ばれた。そこで同年 9 月に庄地区の農家に対してアンケート調査を実施し，95％の農家が集落営農組織の設立を希望した。2013 年 4 月に集落の農家 35 名から組織設立の同意書が提出され，5 月に組織を設立した。そして，2013 年 10 月に集落営農組織を法人化して，農事組合法人庄の夢が設立されることになった。

３．　経営内容

2015 年現在の庄の夢の構成員は 36 戸（出資金は 10 千円/戸），経営田面積が 39ha である。構成員の中に酪農家が 1 戸いる。3 年前の設立時は構成員が 28 戸であったことから 8 戸（集落外から 1 戸，集落内から 7 戸）増加している。

庄の夢が所有する機械はコンバイン（4 条刈り），ブームスプレーヤのみである。ほかの機械は 5 年を目途に装備することとしているが，それまでは機械を所有する構成員に作業を委託している。10a あたり作業料金は作業別にそれぞれ，代掻き 5 千円，田植 6 千円，稲刈り 13 千円に設定しており，4 戸の構成員農家が主に引き受けている。また，畦畔の草刈り作業は，地権者に 10a あたり 8 千円で依頼している。

田の作付内容は主食用米（特別栽培米，森のくまさん）が 30.6ha（単収 7.5 俵），WCS 用稲が 8.7ha，大豆が 0.4ha である。主食用米を基本とし，転作は WCS 用稲で，大豆は作らないことにしていた。しかし最近，大豆の販売価格が 60kg あたり 18 千円くらいと高値で取引されているため，補助金を入れると大豆の収入（大豆単収を 5 俵とすると）が主食用米よりも高くなることもあって，大豆作を一部導入している。

主食用米の販売は基本的に農協へ出荷している。農協の概算金は 60kg あたり 12.3 千円であった。ただし，後述するように米づくりにはこだわっており，冬季は緑肥としてクリムゾンクローバーを育てるとともに，沖縄県与那国島原産の珊瑚礁の化石を仕入れて，田植え前のほ場にすき込んでいる。化石珊瑚は，カルシウムやミネラルが 70 種類以上含まれており，発育の良い，丈夫な稲穂が育つと言われている。こうしたこだわり米を，大手百貨店の「そごう」等に販売している。販売にあたっては，法人で生産した 2,200 俵全量を JA に出荷し，その半分の 1,100 俵を JA から買い戻して，そごう等に販売している。今後，独自販売に力を入れていき，1,800 俵を独自販売することを目標としている。

現在の借入金は，10 百万円であり，機械格納庫と 500 俵を保管するための冷蔵庫の建設資金である。

４．集落営農法人と集落の活性化

庄地区では庄の夢の主催による都市住民との交流イベントとして春の花まつりが 4 月の 2 日間開催されるようになった。既述の通り冬季に緑肥としてクリムゾンクローバーの種をまくが，春になるとこのクローバーの花で田一面が燃えるような紅色に染まる。当初は，緑肥としてレンゲとしたが，種が中国産であまり繁茂しないものであった。そこでクリムゾンクローバーを検討したが，種代が高いことが課題であった。しかし，里モンプロジェクトに応募し，採択されたことで 500 千円の補助金を活用できるようになった。

この花まつりには，2016 年には 500 人が参加し，2017 年が 700 人まで増加している。さらに集落の女性 20 人で加工部を結成し，春まつりでの食事の提供も開始された。2016 年は 300 円の食事を 200 名が購入し，2017 年は 500 円の食事を 350 名が購入している。

なお，この加工部には市から 6 次産業化の補助もあって，せんべい，コロッケなどの色々なものに挑戦する意欲が醸成されている。

また，現在法人の事務所はなく，会議などは集落公民館を利用しているが，今後，直売所や加工施設を併設した事務所をつくりたいとの意向が庄の夢には存在する。

注１　入り作者の多くは葉たばこ農家であり，中には 5ha 程度を耕作する農家もいる。